

課題名：在住外国人の実態調査による多文化共生社会推進に向けた施策提案 一岩手県盛岡市の事例一

研究代表者：総合政策学部 准教授 山田佳奈

課題提案者：盛岡市交流推進部文化国際課

研究メンバー：Tee Kian Heng（総合政策学部）

猿舘賢治・山田祐子（盛岡市交流推進部文化国際課）

技術キーワード：多文化共生、在住外国人、盛岡市、調査、施策提案

▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市の在住外国人は今後も増加が見込まれるが、特に就労在住外国人については生活実態等の把握が難しく、対応が困難な状況になっている。そのため、本研究では在住外国人への総合的・体系的な対応に向け、同市在住外国人の実態調査（アンケート調査）を行った。

結果からは、同市や盛岡国際交流協会による支援体制が十分に認知されていない等の課題がうかがえた。今回の調査結果をふまえ、令和4年夏より市が導入する市政情報発信のLINEサービスに参加し、やさしい日本語や多言語による生活情報を発信するほか、今後の施策に反映させていく。

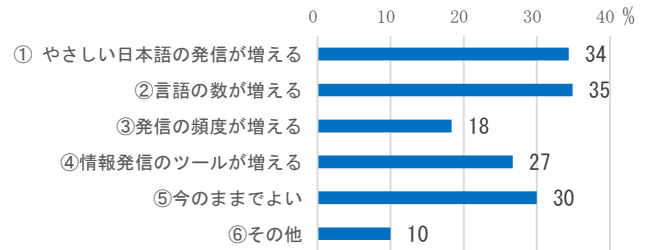
▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：盛岡市在住の全ての在住外国人（18歳以上）
2. 調査内容：日本語の使用状況、地域との関わり、生活情報の入手先、災害への備え、暮らしの中での困りごと、情報発信の希望、等
3. 調査期間：令和3年 8月6日～同8月25日
4. 配布数：1,458
5. 回答方法：①郵便による調査票の返送あるいは②GoogleフォームでのWeb回答
6. 回答数：合計570（内 無効 2）
＜内訳：郵送 292（内 無効0）、Web（Googleフォーム）278（内 無効 2）＞
7. 回収率：38.96%（有効回答数 568）
8. 使用言語：日本語（ルビ付き日本語）・英語・中国語・ベトナム語・ミャンマー語（郵送した紙の調査票は日本語のみ、Googleフォームでは上記5言語から選択）
9. 対象者への御礼とフィードバック：令和4年3月に、御礼の挨拶、および調査結果と盛岡市多文化共生相談窓口にアクセスするQRコードを入れた葉書を対象者に郵送

▼研究の成果（結論・考察）

- ・およそ半数の回答者が、市役所での書類記載や病院での病状の説明の際、日本語の使用に困難を感じていることがうかがえた。生活に必要な手続きや健康面に関わる場面で、サポートがより求められるといえる。
- ・市や（公財）盛岡国際交流協会による在住外国人の支援体制が十分に認知されていないことが明らかになった。行政情報が得られにくいことで国や自治体等からの支援が届かない事態が懸念されるため、より情報にアクセスしやすい方法の検討や情報発信の仕方について工夫が必要である。
- ・市の今後の情報発信に対する希望については、「言語数の増加」と「やさしい日本語の発信増」がほぼ同数で最多だった【図1】。在住外国人への情報提供体制の整備は、日常生活において必須のものであり、かつ、非常時においても重要であることから、早急に取り組むものとして提案する。

問4(6) 盛岡市の情報発信は どうなればもっとよいと思いますか。(いくつでも○) (n=550)



【図1】盛岡市の情報発信に関する希望・期待（問4（6））

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 盛岡市公式LINEサービスによる情報提供は令和4年夏の開始が予定されており、今回の調査結果をふまえた具体的な施策が既に進行中である。また、本調査の内容は生活の多面にわたることから、時機をとらえて各結果を今後の市や協会の施策に反映させていくことが重要であろう。
2. 在住外国人を対象とした今回のような調査は市としては初めてであったが、今後も継続的な実施が望まれる。
3. 市では令和元年に町内会・自治会を対象とした調査を実施しており、本研究はその結果も念頭に置きながら進めた。今後は両調査の結果を振り返りながら、さらに具体的な実状の把握と分析を進めたい。



アンケート結果の詳細は、左のQRコードからアクセスしていただけます。

QRコードは併デンソーウェブの登録商標です。

【謝辞】 調査実施にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

Thank you for your cooperation.

非常感谢您的配合。

Cảm ơn sự hợp tác của bạn.

သင်၏ပူးပေါင်းကူညီမှုအတွက်အထူးကျေးဇူးတင်လျက်ပါ။

